



お客様とともに

竹田 i Pグループは、竹田 i Pホールディングスの前身にあたる竹田印刷の創業以来、一貫して真心込めたきめ細かいサービスを信条としており、誠実を尊ぶ文化があります。

グループ全体が心ある誠実な企業風土を持ち、常にお客様に寄り添うサービスを提供し続けたいと考えています。

お客様のパートナー企業を目指して

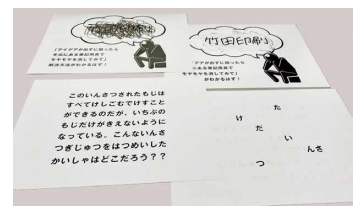
17.17

竹田印刷(株)

お客様の「謎解きイベントで消しゴムを使う仕掛けを実現したい」というご相談を起点に自社開発を進め、「消しゴムで削れるスクラッチ印刷物」の発明で特許(特許第7829014号)を取得しました。

隠蔽層を一般的な文房具の消しゴムで擦るだけで隠された情報が現れる、印刷業界でも前例のない技術です。特殊なインキで表面を保護した上に隠蔽層を印刷する独自構造により、硬貨が不要な利便性、折り曲げや接触に強い耐久性、通常のオフセット印刷で多様な表現に対応できる自由度を実現。イベントツールやDM、学習教材など幅広い活用が期待され、すでに複数案件で採用されています。

これからも、お客様の想いを形にし、共に新たな価値を創出してまいります。



消しゴムで消す前(左)、消した後(右)

2025年11月5日～7日の3日間、ポートメッセなごやで開催された日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ2025」に出展しました。今回のブースは「1つの課題に多面的に対応し、お客様とともに最適な解決策をつくりあげる」当社の姿勢を、パズルのピースがつながる明るくポップなデザインで表現。アート雇用社員の作品を紹介する「アート・ブリュット」の展示や初のグッズ販売を通じ、ダイバーシティへの取り組みを共有しました。

さらに大阪本部と連携した「謎解き企画」を新たに実施し、景品には過去のノベルティを再利用して資源の有効活用にも配慮。多くのお客様と温度感のある対話を築きました。

今後も印刷からデジタル、ロジスティクスまで一気通貫の提案力を磨き、お客様に寄り添う伴走パートナーとして共に歩んでまいります。



(株) 光文堂

2026年1月28日・29日、ポートメッセなごやにて「現在・過去・未来 その先へ」をテーマに「Print Doors 2026 第62回新春機材展」を開催しました。培ってきた歴史を大切にしつつ、現状に満足せずお客様とともに未来へ飛躍したいとの想いのもと、154社が最新鋭の印刷機材を出展。給紙から成型まで一台で完結する独自開発の「立体紙箱成形機」や、多様な封入・袋詰めにモジュール設計で対応する自動加工機など、省力化と生産性向上を両立する自動化装置を多数実演しました。

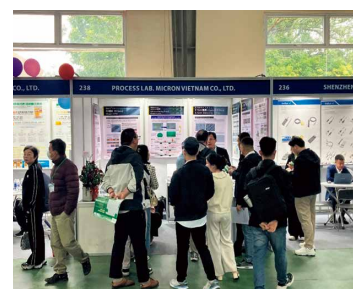
さらに「コラボレーション展」や「特別セミナー」も実施。単なる機材紹介にとどまらず、市場環境の変化に挑むお客様のビジネスパートナーとして知恵を共有し、持続可能な印刷産業を共に築く一歩を踏み出す有意義な機会となりました。



(株) プロセス・ラボ・ミクロン

2025年11月20日～11月22日までの3日間にわたり、ハノイで開催された電子部品実装技術の展示会「Global Electronics Intelligent Manufacturing Show Vietnam 2025」に出展しました。

グローバルサプライチェーンの再編が進む中、ベトナムはコンピューターおよび電子機器製造の世界的拠点として急速に台頭し、注目を集めています。今回の出展では、こうした変化の激しい市場環境において、ご来場いただいた多くのお客様から、現在抱えている課題や将来的に直面する可能性のある課題について直接ご相談をいただくことができました。急成長するベトナム市場の勢いを肌で感じ、新たな可能性を確信する有意義な機会となりました。



ISO9001（品質マネジメントシステム）認証取得

	竹田印刷（株） 竹田 i Pホールディングス（株）	日栄印刷紙工（株）	竹田東京プロセスサービス（株）	（株）プロセス・ラボ・ミクロン
認証取得日	1999年11月15日	2015年11月2日	1999年12月1日	2000年6月26日
認証登録番号	07965-A		12915-A	09146

品質に関する基本的な考え方

竹田印刷ではISOの3つの規格9001（品質）、14001（環境）、27001（情報セキュリティ）およびJIS Q15001（個人情報保護）のマネジメントシステムを統括して、TMS（竹田マネジメントシステム）として運用しています。品質に関しては、ISO9001に基づいて品質保証体制を整備し、品質管理に万全を期しています。さらに、品質の向上を図るため継続的な改善を行い、常に信頼される製品を提供することにより、お客様の発展に貢献したいと考えています。



品質不適合発生時の対応

品質不適合発生の際には「不適合及び緊急事態対応管理規定」に基づき①事実調査 ②原因の究明 ③影響範囲の特定 ④お客様への報告を行います。そして「是正処置規定」に基づき、不適合の再発防止や原因を除去するための是正処置を行い、または正処置の実施状況を3ヶ月後にフォローアップすることで、効果の確認をしています。

品質教育・品質会議

竹田印刷では、新入社員を対象にした基礎的な品質教育をはじめ、TMS（竹田マネジメントシステム）の年間教育計画に基づいた品質教育を行っています。また竹田東京プロセスサービスでは、QCサークル活動を通じた品質意識の向上や品質教育を継続することで、品質第一の風土の構築と維持に努めています。

経営トップが参加している品質会議では、品質トラブルの事例を全社に展開し、組織全体の品質意識の向上につなげるとともに、過去の不具合事例をデータベース化して再発防止に活用しています。



品質向上への取り組み

東海プリントメディア（株）

東海プリントメディアが印刷を担う読売新聞では、全30工場で年3回の紙面品評会を実施し、印刷品質の維持・向上に努めています。同社では設立当初より小集団による「品質・損紙・整備・コスト削減・6S」の5分野で継続的な改善活動を継続、2025年度も色再現精度の向上、カス落ち削減、オペレーションミスの洗い出しと対策など印刷品質の向上に加え、部品交換周期の見直しや設備故障時の修理・修繕の内製化によるコスト削減にも取り組みました。また6S推進活動では、従来の5Sに加え危険個所の養生、危険物の取扱い・保管方法の注意喚起など特にsafetyに重点をおいた活動を行ないました。



小集団活動内容の掲示ボード



社内紙面品評結果



竹田東京プロセスサービス（株）

印刷実験を実施

スクリーンマスクは基本的にオーダーメイドとなるため、お客様の要望に応えるための新商品開発を常に行っています。北陸センターにある技術棟には印刷室と実験室があり、印刷の再現性について可能性を探るなど、お客様と試行錯誤しながら、様々な試作品の作製や実験が行われています。

品質保証・品質管理

半導体関連マスク製品は、電子部品の一部として使用されるため高い精度が求められます。そのため全数検査により不良品・異常品を取り除き、品質保証に努めています。また、品質にバラツキが発生しないように標準書・QC工程表を作成し、一定の品質基準を保つようにしています。

日栄印刷紙工（株）

厳しい品質チェックを実施

日栄印刷紙工では、多様化する顧客ニーズと厳しい品質基準に対応した化粧箱などのパッケージ、各種表示ラベルなどを製造・販売しています。製品によっては全数検査を行っており、ブランクス検査機を使用して、内容により“ハード/ミディアム/ノーマル/イージー”等の検査モードを使い分けながら検査を実施しています。医薬品や化粧品のパッケージは特に厳しく検査をしており、バーコードが読み込めるかどうか、成分がきちんと読めるかどうかなど、限定箇所を厳しく検査しています。

初期段階での品質確認の強化

非接触型の大判検版システムを活用し、印刷時の刷りだし検査を徹底しています。高精度な画像検査により、微細な不良や版ズレを量産前の段階で検出。後工程への流出を未然に防止し、初期段階での品質確認を強化することで、安定した製品品質と信頼されるものづくりを追求しています。

（株）プロセス・ラボ・ミクロン

ISO対象製品を開発

プロセス・ラボ・ミクロンでは、品質向上に向けて以下のように様々なISO対象製品を開発しています。

HGP™メタルマスクの開発

電子回路基板に、はんだペーストを印刷するため、メタルマスクにペーストを流し込む際、マスクの開口部（すきま）からペーストが裏回りしないようにするために、開口部のへりの鋭角度をシャープにした製品です。電子回路基板に連続印刷する際、ペーストの滲み出し防止に強い効果を発揮します。

SHG™メタルマスクの開発

マスク開口部の壁面を平滑化、また開口部のへりの鋭角度をシャープにすることで、マスクを引き上げた際にペーストが開口部壁面に残ることを防ぎ、かつペーストが裏回りしないようにすることで、連続印刷時の仕上がりにばらつきが出ないようにした製品です。

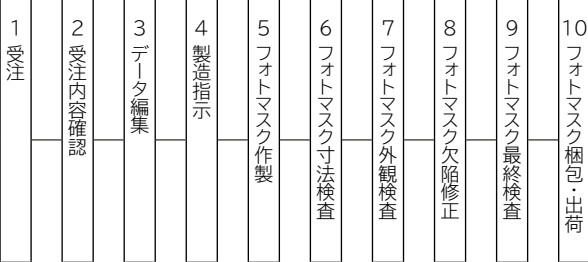


北陸センター 技術棟



印刷実験室

例：フォトマスク 作製工程（概略）



同じ紙面の中で検査モードを使い分けることができ、また不良の内容や大きさが分かるようになっています。（検査条件は、お客様が希望される品質により異なります）

